

オンライン研修会



初体験… オンラインで指圧の指導

第27期 川原善次郎先生



日本指圧専門学校同窓会も2年続きのコロナですっかり翻弄されてしまいました。予定されていた同窓会の企画や行事も開催できずに困り果てた末に大崎副会長の提案で私が指圧実技講師を務めオンラインで指圧研修会を開催する運びとなりました。大崎副会長が急ごしらえのカメラマン、中盛副会長が何でも屋のスタッフとなりましたがなにやらドタバタ模様・・・により講師役の私自身が動画の被写体に慣れていないこともありさぞ受講生の皆さんは困惑されたことと思います。

研修はベッド上での基本指圧の応用をテーマとしました。研修方法はそれぞれ2人1組でオンライン研修にエンタリーしていただきました。最初に私の模範実技をオンライン参加者に観てもらいその後それぞれのペア参加者が私の実技を実際にやってみる。オンラインの画面を通して順番に個別指導をして受け手にも感想を聞きながらその繰り返し技術指導となりました。



初回の研修テーマは腹臥位、仰臥位、側臥位での頸部指圧でした。枕の位置や使い方で最適な施術体位がとれることと等頸部指圧の各要素を実践的に取り上げてみました。施術者の身体の位置取り等、実践的な経験に基づき指導しましたが学生の参加者の方々には慣れないことの連続で大変だったことでしょう。2回目は浪越の腹部指圧をテーマにした研修を行いました。学校で習う腹部指圧が基本ですが実際の臨床現場での腹部指圧は身体の色々な処の治療につながることを学生の方々に

意識してほしいと思いました。自分が腹部のどの場所を指圧してどのような効果があるのかを解説しながらの実技指導を試みてみました。丁寧にそして入念に触診して腹部の隅々まできちんと指圧するわけですから受け手の反応、表情の変化にも気を配ることの大切さを学習していただきました。経験豊かな指圧師の腹部指圧では足の先から頭のとつぺんまでの異変箇所に気が付くことがあります。膝関節のトラブル、腰痛、便秘、頭痛、肩凝り、

頸部の凝り等の兆候が診て取れることがあります。それらを入念に施術していくことで健康な身体作りができることを講義しました。学生の参加者には難しかったかもしれませんが。しかし臨床施術のレベルの一端を知ってもらっただけでもよかったですと思います。オンラインの画面を通して受講者が感じたままの多くの質問もいただきました。私にとつて予想しなかった素朴で基本的な質問もありましたが受講者の真剣さが伝わってくるものばかりでした。それらに私も夢中になって実技を交えて応えていく講習会にいつしか居心地のよさを覚えつつ研修会を終了しました。対面式の勉強会とは違う密着感を体験して今後もこのような機会を同窓会で企画されましたら再度参加させて頂きたいと思えます。



一日も早くコロナが終焉して皆さんの顔を見ながら実技指導をして話ができることを願っております。



オンライン研修会の 講師を経験して

第52期 大澤 昌裕先生

昨年同窓会から指圧勉強会講師の依頼をいただきました。コロナ禍なので

対面式の勉強会開催が難しいのでオンライン指圧勉強会の講師をお願いしたいとのことでした。オンラインで指圧

の実技指導ができるのかと大変困惑したのを覚えています。私は日本指圧専門

門学校卒業後、治療部で10年間基本指圧をひたすら磨いてきました。浪越の

基本指圧しかできない自分より多くの臨床経験があり基本指圧以外の手技も

習得している先生のほうが講師に相応しいのではないかと相談したところ治

療部で培った基本指圧だからこそ良いのだと説得されました。自分も今まで

やってきた浪越指圧を振り返り基本指圧の実践から体得したことを参加者にお

伝えることが私にできることだと思ひ直しました。

いざりハーサルが始まると同窓会スタップもオンラインは未経験というこ

とで当初はNGの連発となりました。りハーサルの参加者の皆さんには大変ご迷惑をおかけしたことと思いますがそれにもかかわらず真剣に勉強会に臨

んでいる参加者の熱意が伝わってきたのがうれしかったです。

本番ではオンラインを通してモデル相手に基本指圧の模範実技を見て頂きながら指導をすることとなりました。



いざ基本指圧と言われても結局のところ身体の使い方、体重移動、立ち位置(座り位置)を徹底することから指導をはじめました。卒業期によって体重の掛ける方向に微妙な違いがあることを治療部時代の先輩達から伺いました。がそれらの押し方なども実演しながら参考にしていただきました。なんだから学校で習う事とあまり変わり映えしないので受講者の反応が心配でしたが予想以上に受講者からは多くの質問が飛び交い**基本指圧の基本**を反復練習することができたようです。

臨床現場では多くの患者に対応しなくてはなりません。基本の中でも上半身と下半身が捻れないように体重移動する事を一番掛けて指導しました。自分の体幹が捻れていると施術者自身の身体に負担が掛かってしまうことを私が実際に実演して見せることで視覚的にもより具体的に理解していただけたのではないかと思います。また同じ部位を施術するにしても身長や体型によって自分の体型に適した使い易いやり方を導き出すことが大事だと指導してみました。

それらの全ての映像は勉強会参加者がいつでも繰り返し見ることができるよう同窓会がネット上にサイトを設けてくれたので勉強会終了後も参加者が自分の実技と私の模範実技を比べながら復習できるのも効果的だった



と思います。

オンライン勉強会の参加者との交流を通して自分が培った浪越の基本指圧を私なりに次世代に継承していくことは大事なことでと改めて感じました。

今回の企画で少しはその橋渡しができていたのであれば幸いです。今後も機会を頂ければ自分が培ってきた事を次の世代に伝える役割を大事にしていきたいと思ひます。

ご挨拶



学校法人浪越学園 日本指圧専門学校 校長

浅谷 健介

本年度より日本指圧専門学校の校長職を拝命しました浅谷健介と申します。

簡単に私の自己紹介をさせていただきます。

平成7年に学習院大学経済学部を卒業し一般企業に就職しましたが、27歳の時に健康増進に寄与する仕事に就きたいという思いから東洋医学の道に進みました。その後、柔道整復の専任教員をする傍ら浪越学園の門をたたきました。自分の中で東洋医学の知識や技術を補完するためです。当時、担任は大久保直子先生、石塚洋之先生でした。欠席が多く生意気な学生でしたので、お二人にはとても迷惑をおかけしたかと思えます。浪越学園を卒業後、筑波大学理療科教員養成施設に進学し、特別支援学校の教員になる予定だったのですが、都道府県の採用試験でことごとく不採用のお知らせを受けます。路頭に迷っていたところ、金子

泰隆先生からお誘いを受けて現在に至ります。

改めて私の職業人生を振り返ってみると、自らの意志で選択をしているように勘違いをしていますが、多くの人の出会いとご縁で今の自分があるのだと再認識します。集団生活や学校嫌いの私が校長になる。これも何かのご縁と使命だと感じています。

現在私に与えられた使命として、1つは学校運営の健全性向上、2つめはあん摩マッサージ指圧業界の活性化であると考えています。少子化などによる入学者の減少に対しては、今年度より有資格者を対象とした授業料減免制度の導入や単位認定、インスタグラムやYouTubeを始めとするSNSでの広報を行っています。また、近年は退学者がとて多いたが現状です。退学の理由としては学内における

人間関係や学習面での問題、経済的事情、健康上の理由が散見されます。疾病予防や健康増進を教授する学校において学生の精神・身体の不調を引き起こさせてしまうことは極力避けなくてはなりません。学習面についての問題も教職員の「母ごころ」とスキルアップによって解決すべき課題です。このような前向きな取り組みと、経営上の無駄を削減するといった効率性を求める取り組みも行っております。本校舎の新築はその両者です。一方で、学生に対しあん摩マッサージ指圧師となり

りますが、今年度中には同窓の先生方にお使いいただけるように、広く社会で「浪越ブランド」を感じさせることができるシンボルを商標登録しています。

の役割です。これについては、同窓生の先生方の協力がとても重要となります。学校という組織は学生のことは見ようと努力をしますが、学生の数年後の世界については疎いものになりがちです。どんな些細な事でも構いませんので、先生方にごこの業界についての指導を頂きたく存じます。卒業生に向けた支援としては、大崎会長代行のご尽力により実現した、同窓会窓口の賠償責任保険（本誌に同封）の導入や、学生と業界を繋ぐことを目的として株式会社セリアジョブによる就職説明会の実施などがあります。また、あはき法における広告の制限などの問題はあ

我々、あん摩マッサージ指圧師は数少ない患者に直接触れる医療職ではないでしょうか。触れる、触れられる行為は人間の本能行動です。先日、ある卒業生が1歳のお子さんを連れて自宅に遊びに来てくれました。そのお子さんを観察していると何にでも触ろうとし、お母さんも触れることで意思の疎通を図っている様に見えます。本能行動に理由はありませんが、敢えて理由を述べるならば、健全な生命の維持のためではないでしょうか。我々の職業は人の本能行動に基づいた行為であると考えます。西洋医学だけでは最低限の生命の維持はできるかもしれませんが、健やかな生活を送ることができないでしょう。我々の仕事は絶対になくすることはありません。あん摩マッサージ指圧が紀元前から続く医学であることがそれを証明しています。

先生方のご健康とご多幸をお祈りしご挨拶申し上げます。

石塚寛前校長先生の近況

石塚寛前校長先生の
米寿のお祝い会を開催して

第49期 中盛 祐貴子先生



2021年11月21日(日)に、晴れ渡るお天気にも恵まれて、門前仲町駅そばの赤札堂4階にある東天紅深川店で、石塚前校長と米寿を祝う会を開催しました。事の発端は、石塚先生と私はラインで交流することがあり、その時に、今年石塚先生が米寿になることを教えて頂きました。10月に緊急事態宣言も解除となり、少しずつ外出や外食が出来る機会も増えて来ましたが、石塚先生のお身体の負担にならぬようにと配慮して、東天紅での開催となりました。

石塚先生は、学校でお会いしていた時よりは、少しお痩せになられていたものの、毎週金曜日には体操教室にも参加をなさっているとの事でした。当日は、娘さんが石塚先生をタクシーで東天紅まで連れて来て下さり、娘さんから「父が今日、皆さんとお会い出来る事を楽しみにしていました」と言われ、心より嬉しかったです。

最初は、サッポロビールで乾杯をし

ましたら、石塚先生が故浪越徹先生はサッポロビールが大好きで、徹先生と飲むときは必ずサッポロビールだったと懐かしそうにお話して下さいました。お食事は、石塚先生と食べられるものを注文して、スープやお粥、杏仁豆腐などを中心に食事を楽しみました。

今回の米寿のお祝いには、18期卒業の村岡曜子先生、24期卒業の金子武良先生、47期卒業の當麻康江先生も参加して下さいました。石塚先生は、学校の旧校舎の建て替えのことも気にかけておられました。私から学校の現状、同窓会や指圧協会、指圧学会の現状などについても分かる範囲で説明しました。コロナ禍で、同窓会や協会、学会が恒例の行事や発表、研修会を開催することが全く出来ず、非常に残念ですが、しかし、金子先生と私は、12月4日、5日に開催される人体科学会の第31回大会で症例報告を発表するとお伝えしましたら、石塚先生のお顔がほころんで、笑顔になりました。金子先生

から、私たちの抄録が手渡されて、「症例報告の発表を是非、頑張ってください」とエールを頂きました。

また、村岡先生から石塚先生に二分脊椎症で便秘の患者さんに対する質問がありました。便秘の患者さんが、軟便剤を使うと排便しやすくなるが、二分脊椎症で便秘の患者さんや高齢者の場合、排便しようとしてトイレに行っても、排便が叶わない時がある。

にも関わらず、無意識に排便してしまふ失敗もあるが、そのようなことが何故、起こるのか？外肛門括約筋と内肛門括約筋の働きについて、教えて欲しいとの質問内容でした。これに対して、石塚先生は、大腸の延長線上にある内肛門括約筋は自律神経由来なので不随意筋、外肛門括約筋は運動神経由来なので随意筋の働きがあり、恐らく自律神経の失調や乱れからそうした症状が出やすいものと思われる。また、外肛門括約筋の衰え

も排便障害の原因である。だから仙骨や腰椎、腹部や頭部などをしっかりと指圧をして、全身指圧を施して、自律神経の調和、自己免疫力の回復を図れば、排便障害も改善されるだろうとの回答でした。また、随意筋の衰えを回復する方法として、外肛門括約筋の機能訓練も大切である。毎日歩行訓練も重要ですねと教えて下さいました。村岡先生はじめ、



参加者は皆一様に、目から鱗が取れたような感激がありました。久しぶりに、石塚先生の解剖学の講義を受けることが出来て、本当に嬉しく、感謝、感謝の一日を皆様と過ごすことが出来ました。

最後に記念の集合写真を撮り、皆様と笑顔で解散となりました。参加者から石塚先生にプレゼントをしたところ、石塚先生から喜んで頂けて私たちも嬉しかったです。来年の春には、また皆様と元気にお花見で再会できることを祈念しております。

スペインより

指圧のゆく道、そして覚悟



日西指圧学院・阿是指圧代表

第25期 小野田 茂先生

スペイン渡西

スペインのマドリッドに1984年渡西し、後進の指導とクリニックにおける患者さんの治療を約40年続けてきました。

当初は、指圧という日本の手技療法は、まったくマイナーで、5、6年ほど鳴かず飛ばずの状態でしたが、徐々に口コミで広がり、嫁さんと子供2人の食い扶持ぐらいいは、確保できるような輩も徐々に出てきて、治療一本でやっていただけに加えて、指圧教室を開講して普及も始まりました。無我夢中の

最初の10年間でした。

30歳になる直前の決断でしたので、「ダメなら日本に帰国さ。」と開き直って日々を送っていたのを今でも覚えています。無からの出発は、開き直ると強いものであつたという間の日々が通りました。

この商売は、大金持ちにはならないけど、貧乏にもならないよと、先輩に何回も言われていたので、この言葉は確かに重みのある一言だったと今でも思っています。

外国人も肩が凝る

外国人は、肩は凝らないと、どこか

のテレビのワイドショーで、整形外科の有名な先生が自信ありげに言っていたのを聞いたことがあったので、はてはて、スペインに来て若干の不安はありましたが、予想に反して肩凝りだらけのヨーロッパ人を実感し続けてきました。

特にヨーロッパの人々（俗に言われる外国人）の首は、クリスタルの首といわれるように華奢で、首の椎間板ヘルニアの人が沢山います。確かに日本人の首は、ペルー人には似ていても、ヨーロッパの人々との首と比較すると確かに違っているのは、素人の目で見ても明白のようです。

こんな患者さんが、うようよいる中で、理学療法士や整形外科医が頑張っているようですが、イマイチの感があり、そこら辺の隙間に指圧療法が食い込んでいき、患者さんを獲得していった歴史があります。患者さんにしてみれば、治してくれればどんな国籍の人が治療しても、どんな手技を使ってもすべてokですので、治してくれる所人が集まるのは必然なのでした。

阿是療法の創作

特にこの地の腰痛症の患者さんは、反り腰による障害が多いので、その結

果椎間板ヘルニア障害の患者さんが多く、30年前は今と比べると手術が花形の時代でしたので、手術の後遺症の患者さんや手術をもとと嫌う患者さんが、主に当センターの患者さんでした。指圧治療の結果が良かったのか、バブルの金余りの患者さんが辛抱強く治療にお金を散在していただいた結果か、90年代のバブル期は、行列のできる治療院よろしく、随分繁盛させていたいただきました。

このバブル期の異常な金余りの時代に、西洋人特有の腰痛症の治療を戦場外科医のごとく、沢山治療させていただけ経験を積み阿是指圧療法を確立しました。

この阿是療法は、ヨーロッパ人の体に合ったポイントや体の癖、そして体の使い方の癖を研究して作り上げたメソッドです。

面白いもので、日本人には日本人に合った指圧療法があり、ヨーロッパ人にはヨーロッパ人のための指圧療法があります。

農耕民族と狩猟民族の食生活の違いや体の各パーツの大小の違いなどを考慮した体のバランスの置き方などが、長い歴史によって作り上げられました。

またその反対にバランスの崩れ方によって、治療法が違ってくるといった

奥深いものを常日頃、達観させられました。これは今でも続いている研究テーマです。最初の2、3年は、日本で実践していた治療法をもって治療をしていましたが、刺激量の配分不足がわからず、閑古鳥の日々が随分続いていたのを今でも鮮明に覚えています。体が違うということを実感させられた最初の5、6年でした。

統一テーマ

この体の根本的な違いや、考え方の違いを考慮しつつ指圧治療を変化改革を続けてきました。しかし今この治療法の違いをあえて前面に出すことが、いなくなつた時代に突入しています。ここ20年の間、体の違いや環境の違いによって治療法を変えて（刺激量等）、対処してきましたが、コンピュータやスマートフォンが普及が全世界同時進行することを企業戦略とするこ

とにより、全世界の人々の症候群等、そして、それによる治療法が妙に似てきました。

似てきたのと同時に、一日8時間の労働におけるコンピューターの使用時間、その挙句スマートフォンが常用と

た。首コリという造語が一般化されました。首コリという造語が一般化されました。

インナーマッスル

首こりで悩むとはどういうことでしょうか。

小さい画面や小さい文字を無理をして集中させつつ見るようになり、こりが奥に奥に逃げていくようになりました。

骨にこりがこびりついた状態を想像してください。

例えで言えば、錆が奥に染み渡るようになったのです。

以前は、僧帽筋や大胸筋などを代表とした表面の大きい筋肉が、こりにより血液循環不良を訴えてきました。そんな訳もあり、表面のこりを処理してそれなりの結果を出していました。

しかし現代人のこりは、奥に奥にこりが逃げて、インナーマッスルに影響を及ぼすようになりました。

心体一如

神経、特に自律神経のアンバランスを誘発するようになりました。すなわち凝りが奥に移行して精神的疾患を誘導するようになりました。この辺がく

せ者で、西洋医学を勉強した現代の医者は、精神と肉体のアンバランスが、体にどう影響するかを実は習っていないのです。

特にこちらの医者は、精神と肉体のアンバランスが、気の病、すなわち病気をつくるというメカニズムを習っていません。

マイクロ医学の弱点が今現実に現れているのです。切除、薬の投与を医者の仕事の最優先に置く現代医学の弱点が、世界的に表面化したのです。肉体的（筋肉、腱）疾患を主に治療していた指圧療法家が、精神的な疾患を持つ患者さんを多く診るようになりました。健康な体に、健康な精神が宿る。まさにこの言葉が、的確に今の世の中を言

指圧の心

い表しています。

こんな時だからこそ、手を当てる療法の価値を見直す時が来ているのです。30年後に残る仕事に、指圧はチョイスされる意味がここにあるのです。

難病を治すのも医者の仕事です。しかし現代において、機械やコンピューターに奴隷のようにこき使われている我々がいます。

患者の目も見ないで、薬を処方する

医者、血液検査に責任を転嫁する医者がいます。

こんな時だからこそ何気ない微笑、そして超原始的な手のぬくもりによる手当てが必要な時なのです。

プロとして早く患者を楽にしてやりたく、長年にわたり数々の阿是指圧テクニックを習得してきた一治療師である私が今言えることは、ただただ無心に手を当てる母心が一番の治療と確信したことです。

まだまだ修行の身ではありませんが、今一度手当てが、無の心をもって患者さんが望むところにミリ、マイクロの違いもなく置くことができるまで修練したいと思います。

無常、世の中一刻一刻変化していきす。変化しなければ、おのずと消滅するのがこの世の常です。

結論

便利さを求めて、何かを失いつつある現代、指圧師(SHIATSUPRACTAR)の行く道が(指圧道)決まれば、ただただ前進のみが結論のようです。

同窓生からの便り

指圧学校を卒業して

第61期 丸山 理恵先生



私は指圧学校を卒業して施設専門の訪問マッサージの会社に常勤として就職しました。その会社は母体が病院で、グループで介護施設やマッサージ、介護タクシーなどの運営もしていて、マッサージはグループの有料老人ホームでの施術になります。私は勤務地が近いこと、私自身も高齢の両親がいることから介護の現場を見てみたいということ、外の移動よりは建物内の移動の方がいいと思いこの会社に決めました。

私の勤務する施設はほとんど4人部屋で300近くあります。マッサージ師は常勤・非常勤合わせて6人いて浪越の卒業生の方もいます。入居している方全ての方がマッサージを受けているわけではありませんが、私は今43人の方を担当していて1日に17〜18人くらい回っています。初めて施設の現場に行った時、今まで麻痺のある方、拘縮のある方、寝たきりの方を施術した事がなかったので、触るのさえも怖いような感じだったので戸惑いました。また、様々な病気を患っている方もいるので、病気について調べたり、解剖学や各論、リハビリの教科書や

ノートを読み返したりしました。

介護に関しても初めての事なので、車椅子の操作や車椅子への移乗、端坐位、寝返り、体の上方移動、体交まぐらの入れ方など教えて頂きました。施術がおわったら体交まぐらをもとの位置に戻したり、適切な位置にしたり、ベッド柵を外したら必ず戻すこと、起こした時は絶対に目を離さないなど、とにかく入居者の方を怪我させないことが一番大切なことで、毎日が緊張の連続でした。

私が大変だと思った事は、施術をする時の体勢です。ベッドが壁についていて反対側に行けない、ベッドの上に色々な物が置いてあったり、足元にテレビ台があったりなど自分の施術しやすい体勢になるのが難しく無理な姿勢になってしまったり腰などに負担がかかり痛みが出てきてしまっています。1年以上かかってやっと少し慣れてきた感じです。ある日、友人を1時間半施術用ベッドで指圧マッサージをした時、体の疲れが全然違うなど感じ、やはり姿勢は大事だなと思いました。施設では入居者の方を優先に考えますが、それでもなるべく自分の体勢を考える事、そして自分自身のメンテナンスもしていかないといけないと思いました。



新しく施設に入居される方でご家族からマッサージの依頼があってもご本人様あまり乗り気でない時対応に悩む事があります。マッサージはお金がかかるから家族の負担になるからやらないとい



う方もいるし、面倒だからという方もいます。そんなに嫌なら無理にする必要はないと私は思うのですが、やはり会社なのでとりあえずはお話します。新しく入居された方は自分で納得せずに入った方や仕方ないと了承している方、でも複雑な心境、施設での慣れない生活や不安で投げやりな態度や言い方をする方もいます。以前入居されたSさん、私が挨拶に行ったら「いらぬよ、帰ってくれ」と怒鳴られ、ご家族から頼まれていますと言っても「そんな関係ない」と。それでも何回かお伺いしてお話をしていくうちに施術を受けてくださり、「やっぱり気持ちいいなあ。体が温まるよ」「また来てね」と。私がおんにちはと顔を出すと「おっ、待ってたよ」と言ってくれて本当に嬉しくなります。

施設で働いて一番辛く悲しい事は入居者の方がお亡くなりになることです。元気でおしゃべりしていた方がだんだん弱っていく姿をみているととても切なくなります。

100歳で看取りのTさんは食事も受けつけなくなり冷たい水しか飲まなくなりました。私がお伺いすると、足が痛いから揉んでと言つて私がさすつてあげるで眠つてしまっています。

「丸山先生、助けて、頼りにしてるよ」「淋しい」「生きてるのが辛い」「長生きし過ぎた」と私に言います。私は泣けましたが大丈夫だよと言つて体をさ

すつてあげるくらいしかできませんでした。入居者の方の死を目の当たりにしてお元氣だった頃の姿を思い浮かべると涙が出てきます。そしてありがとうございますと心から思います。

恥ずかしかつた事を書きます。Hさんは肺炎で入院していましたが、施設に帰つてきました。退院して1週間後くらいにお伺いすると、もともと右肩関節が硬い方でしたが右腕を動かして何かおかしい、右手首が下がるなどと思い、リハビリの職員に見てほしいと伝えました。その後、リハビリの方からあれは下垂手だから・・・と言つたとたん私はハツとして橈骨神経麻痺と思われました。学生時代に「わしゃかとうまさにさる」と語呂で覚えていたのに実際に手がだるんと下がるのにそれが下垂手だとピンときませんでした。何かおかしいでなく、下垂手で橈骨神経麻痺だと思つたのですがと言えなかつた事にととても恥ずかしくてとても落ち込みました。

やはり一番嬉しい事は「気持ちよかつた」「待ってるよ」「ありがとう」と言つてくださる事です。

私は反応がない方でもなるべく話ながら施術をします。Aさんは寝たきりでしゃべれないですが、私がこの間のウナギの話したのを覚えていますかと聞くとAさんは頷いてくれました。聞いてくれていたんだと思うと嬉しくなりました。また、Kさんは施術が終わると私の肩を肩たたき棒で叩いてくれます。Fさんはあまり覚醒しなくて、何回も呼びかけてやっとあゝと声を出すくらいなのですが、私が背中をマッサージした時、あゝ気持ちいいと声を出しました。私は嬉しくて

涙が出そうになりました。
 施設には色々な方がいます。マッサージが好きで肩など強く揉んでほしいという方(そんなに強くしていいのかなと思います)、施設している間に20回くらい同じ事を聞く方、行くたびに同じ事をお話する方、おしゃべりが止まらない方もありますし、教えられることも多くあります。

施設はその方によって違います。指圧というよりはマッサージや軽擦が多いですが指圧の圧点や経絡を考えて施術します。また、関節可動域訓練や体操、ストレッチなども一緒に行ったりしますが、そういったリハビリ的なものももっと勉強しておけば良かったかなと思いました。施設での施術をしていると指圧が下手になるのではないかと小林先生にお話ししたところ、なるべく家族や友達などへ指圧をする機会を作ることと言われました。私は指圧が好きだし、せっかく学んだ指圧を忘れないように意識的に指圧をする機会を作るように努めたいと思っています。私は事務職から手に職をつけて一生働いていたいと思いついて指圧マッサージ師の資格を取りました。資格を取ってもこの仕事は常に勉強の毎日ですし、モノになるには最低10年かかると言われて、やはりこの歳では無理だったか、私の選択は間違っていたのかと思いつつもありませんがこの道に入ってしまった以上頑張るしかないと思っています。いずれ、細々ながらも自宅での開業を目指し精進していきたいと思っています。

今はコロナの蔓延で大変な世の中です。施設での施術も手袋、マスク、フェイスマスク

シールドをつけて感染対策をしています。入居者の方のご家族はお部屋にも入れないし、面会の制限もあり、施設での行事やレクリエーションも中止、食事も個別ですし、入居者の方のADLの低下が見られます。皆様が楽しく過ごせますように、コロナの終息を心から願っています。

私の土台を築いてくれた 指圧師の資格

第62期 福原 七恵先生



浪越学園を卒業して早1年が経とうとしています。
 成人になってからの学校、また自分が学びたい分野ということもあり非常に気合の入った3年間でしたが、卒業した今入学前に立てた目標を少しずつ歩んでいます。
 最初に指圧に興味を持ったのは、仕事先で先輩に教えていただいたことがきっかけです。

私はフィットネスクラブでフリーランスのトレーナーをしているのですが、担当しているお客様に肩が痛くて手が上がらない、膝が痛くてマシンや自重でのトレーニングが十分にできないといった方がいました。

本を読み、セミナーに参加し、調べたりしても十分に理解していると感じる事ができず医療系の学校だったらと思う入学を決めました。また、アライメントが崩れている方に対して緊張している筋肉を和らげ姿勢を整えた上でトレーニング

を始める事ができるのも大きな魅力の一つでした。

仕事をしながらの学校は大変でしたが、夜間の授業に合わせることで生活にメリハリができ先生や同級生のおかげで乗り切ることができました。

実際に指圧師として活動していくと、『こういう症状のお客さんがいるんだけどどう思う?』『こういう場合はあなただったらどう対応する?』と聞かれる事も多くなりました。

以前の自分のように、分からないことをどうしたら解決できるのかと悩んでる方は多いと思います。こういった質問をされた時は返答をした後に指圧をおすすめしています。各専門分野の先生から教えてもらえていつでも質問でき、同じ目標を持った仲間に出会える事。このような環境に自分を置くことは生涯にとっての財産になりますし、お客様に対して責任を持つて接する土台を築く事にもなります。誰もが簡単に行こうとは思えないかも知れませんが、私が入学へ向けて少しずつ準備を始めたように同じように考える方がいれば良いなとお伝えしています。また、今まで話したことのないお客様との会話でも挨拶から自分の抱えている症状をお話してくれたり、やっとなターゲット地点に立てたという気持ちでいます。

現在は今までの仕事にプラスして浪越学園の卒業生が開業している治療院で働いています。



基本的には運動と指圧、ストレッチをメインに痛みの緩和、生活動作の向上、体力増進とステップアップするようプログラムを行っています。ダンサーやライターから間もなく90代になる現役で働いている方までお客様は様々ですが、痛くて動けなかった所から現在の身体の使い方を知ってもらいたい動きがスムーズになったり、以前はできなかった動きができるようになる」と自然と日常生活でも活動が増えていきます。筋力が付いて身体が変わるまでに3ヶ月かかると言われていますが、体の使い方や姿勢が変わってきたのが見えるまでに1年以上、数年かかる方もいらっしゃると思います。指圧が終わった後に『軽くなった』と喜んでくださる方。トレーニング後に『ご褒美だ』と指圧を受けてくださる方。指圧を通し自分の身体や体調に敏感になり定期的に訪れる方。この一年でもたくさんの方を押すことができましたのは大きな喜びです。

コロナもあり健康意識が高まる中、指圧により全身の感覚を呼び起こしベストな体調を知っておくことは本当に大切なことだと思います。身体と心を守るのは私たち個人でいくらでもできますが一番後回しになってしまいう一面もあります。だからこそ、このような時代に身体にも心にも働きかける指圧。温かくも治療になる手技をそれを望む人にいつでも届けられるよう、私のできる事をこれからも続けていきたいと思っています。



第63期 卒業式

日本指圧専門学校第63期卒業式が3月5日(土)東京ガーデンパレスにて午前10時から執り行われた。

黒沢課長の司会で、君が代静聴の後、卒業証書の授与に移る。昼間部大久保直子先生、夜間部金子智久先生の呼名により74名の卒業生が一人一人壇上に入り、浅谷副校長より卒業証書と専門士の称号が授与された。

皆勤賞、功労賞、優等賞と表彰が続き、さらに部活動に活躍した学生が多数表彰を受けた。コロナ禍における学生生活、18名の3年間皆勤者には特に称賛の拍手を送りたい。

続いて日本東洋医学系物理療法学会賞がA組清家美奈子さん、東洋療法学校協会賞がB組の堀辰治さんに手渡され会場は拍手喝采に包まれた。

浪越和民校長より指圧師としての心得、岩本健一同窓会長からは大きなエールを頂戴し閉式した。

時世柄、謝恩パーティーは開催できないが、閉式後も級友と3年間の思い出を語り合う姿が印象的であった。

指圧師人生はこれから！頑張れ63期生！

3年間を振り返って

A組 小松 香



長いと思っていた3年間が終わった。振り返るとあっという間であったが、その時々には必死だった。笑ったり、手に汗をかきながら過ごしてきた。

実技の授業、最初は自己指圧から。先生の号令に合わせ、「いち、にー」ひと押しひと押し何も分からぬが付いていかねば。言われた通り丁寧に、置いて行かれぬよう緊張の日々でした。

少しずつ慣れてきた春の終わり、そよ風が吹き聞こえるのは先生の号令だけ、その中でただお腹の自己指圧を行う。今思うとなんて贅沢な時間だったのだろう。一年生の時の事などすっかり忘れていたがこうやって一歩ずつ進んできたのだ。これからもひと押しひと押しを大事にしたい。

大事にしたいといえばクラスメイトも。とにかく賑やかだった。明るくて、学校で誰かと話せば勉強もコロナもその他色んな事も忘れることができた。解決なんてしなくていいのだ。

何気ないひと言が心に響いた、自分一人では思いもつかない考えだった。実技のペアは、その時に必要な人が回ってくるような気さえした。幸せな出会いだった。国試、卒業式と去っていく時間が止まってしまったような気がしていた。けれど本当は、これからですね、まるさんに救われました。皆様ありがとうございました。どうかお元気で。

有意義な3年間

B組 三浦 庄二



58歳のとき35年間務めた会社を早期退職し(早期と言ってもわずか2年ですが)、読書三昧の隠居生活を目指しましたが、3か月も経たないうちに物足りなくなってしまう。そうした中、ハローワークで、専門実践教育訓練制度というものが、本校がその対象となっていることを知りました。私はかねてより人体の仕組みや機能について興味を持っていたので、本校でそれを体系的に学べることが分かり、入学試験を受験することにしました。

本校受験を決めた一番の理由は、オープンキャンパスに参加したときに感じた「雰囲気良さ」です。対応してくださった先生、指圧をしてくださった先輩……こういう学校で3年間学ぶことができれば最高！と思った次第です。

学校では、学科でも実技でも、純粋に興味のあることを学べる充実した日々を過ごさせていただきました。実技では同級生の指圧を頻繁に受けることができる恵まれた環境にあり、これだけでも入学した甲斐があったと思っています。また、学科や実技で習った知識は家族や自分の健康状態や姿勢等の問題の有無を診断するのに活かされました。家族への指圧や自己指圧は健康維持に大いに役立っています。3年間で身につけた知識や技術は今後生きていく上で大きな力になると思います。

最後になりましたが、教職員の皆さま、同級生の皆さまに、心より感謝申し上げます。3年間本当にありがとうございました。

特別な3年間の学び

C組 丹羽美智子



入学時の志望動機。「触れ合うことで得られる人とのつながり、安心感。お年寄りの孤独感を、体も治せる指圧で癒すことができれば。」そんな思いで入学を決意したのは3年前。入学後、まず驚いたのは先生方、上級生、OBの方との垣根がないことでした。人体の知識がないに等しかった私にとって、医療の学びは難解そのものでしたが、先生や先輩方、クラスメイトに助けられ、なんとか歩みを進めることができました。体の中で展開されている驚異の人体ワールド。生命は尊いものだと分かっていても、学ぶ前と後では実感として大きく変わりました。そして受け手の体と対話する指圧の難しさと奥深さ。コロナ禍の中で、多くの壁にもぶつかりましたが、クラスメイトと共に乗り越えることで、つながりもさらに深まったように感じます。入学して間もない頃のクラスメイトの一言。「うちのクラス、みんなクセ強いけど、それがパズルのピースみたいにくまなくはまった感じっすね！」席替えを一度もしなかった個性派ぞろいだけど、助け合いの精神にあふれた不思議なクラス。夜間部は仕事を抱えた人も多く、コロナ禍で常に出席率との闘いでしたが、結束力の強い本来に良いクラスでした。

最後に理事長先生をはじめ諸先生方、事務局の方々、OBの方々、在校生の方々、そして3年生の皆さん、指圧を通して出会ったすべての方々に感謝申し上げます。3年間たくさんの学びをありがとうございました！

教員として勤めてきて

第20期 藤田 一彦先生



指圧学校専任教員の藤田です。指圧学校に入ったきっかけは中学生の時に浪越徳治郎先生がお書きになった3分間指圧を読んだからです。

昭和51年に指圧学校第20期生として入学いたしました。本校舎のとなりになりました。木造2階建ての寮で2年間楽しい学生生活を送りました。当時寮生は1年生、2年生あわせて30人ほどおりました。地方から出てきて、いずれは



浪越徳治郎先生と藤田一彦先生

地元に戻り開業する意欲のある方たちですので、学科の勉強、実技に毎日熱心に励んでいました。

学校の治療室の営業終了後、寮生同士で練習を行うのが、日課となっていました。当時は浪越徳治郎先生がお元気でしたので、週に1回直接指導をしていただくことができました。また授業で、井沢先生、門間先生に実技を教えてください。ただき大変感謝しております。当時輝いていた先生方に教えを頂き、そして治療室の勤務時代に培った技術が現在の治療スタイルになっています。

指圧の技術を修得するには時間がかかります。あせらず小さいことを積み重ねていきましょう。

資格取得後は学校の治療室、そして当時有楽町駅前になりました。学校付属の治療院に勤務いたしました。

教員の資格を取得後は昭和57年4月より指圧学校の非常勤講師として働くことになりました。最初は鈴木林三先生の助手として実技

の授業に出席いたしました。初めてデモを行ったときに手が震えたのをおぼえています。鈴木先生には身体の緊張を抜いて行う治療、そして自分の身体を傷めない治療を教えてくださいました。

有楽町の治療院は鈴木先生が主任をされていまして、強圧では治療効果が上がらないということを知りました。

平成17年より専任教員として勤務しています。葛飾区の国際鍼灸専門学校で平成2年より指圧実技を担当しています。令和4年3月で専任教員を退職いたしました。

これまで支えていただきました、理事長先生はじめ職員の皆様、卒業生、在校生の皆様にご世話になりました。ありがとうございます。

これからは非常勤講師として勤務いたしますので、よろしくお願いたします。

40年間勤めてきました、本校舎がなくなることは、大変さびしいです。しかし、令和4年度中に新校舎が完成します。

4月からは高い志を持った新入生が入ってきます。前を向いて頑張りましょう。

寄付金賛助者ご芳名

令和三年度 二五三件

六七二、〇〇〇円

御芳名掲載をもつて御礼と領収の証とさせていただきます。○数字卒業期(敬称略、順)

☆八千円

- ②1 西田恒治 ②1 佐藤栄光 ②6 杉本勉 ②8 畑中(川原)糸美 ③7 石塚怜子 ④1 佐々治六郎 ④8 椎名賢太郎 ④9 田中功

☆七千円

- ⑤6 河北剛 ⑥0 結城國夫 ⑥9 関根康博 ⑦0 宇佐美七海 ⑦2 内藤甫 ⑦2 石井ヒサエ ⑦5 中山節 ⑦5 木暮晴雄 ⑦6 粟村緯子 ⑦6 小倉義夫 ⑦7 平野広樹 ⑦8 木村龍一

☆六千円

- ②4 伊藤次雄 ③4 塩野泰利 ⑤1 大崎益弘 ⑤4 今井(黒田)智枝

☆五千円

- ①5 因泥徳彦(ハワイ) ④0 小谷田作夫 ④4 齋藤浩 ⑤3 河内誠二 ⑤3 神田裕幸 ⑤8 安保勝 ⑤9 田口文隆 ⑥1 鈴木健介

☆一万八千円

- ②7 川原善次郎

☆一万三千元

- ②3 赤坂(栢植)かつえ

☆四千元

- ③9 高野賀史

☆三千元

- ① 阿部サト ④ 村越(井上)てい子 ⑥ 清水義嗣 ①6 入山

君子 ①6 濱田洋 ①7 戸来みや

子 ①8 井芹幸夫 ①8 原忠雄 ①8

片山晶子 ①9 飯島幸雄 ②0 川

口義宏 ②1 相野谷真 ②1 服部

(町田) 青香 ②2 三橋昌明 ②3

馬場正義 ②4 向井豪 ②4 藤森

増雄 ②4 上野末次 ②5 水上和

好 ②6 本間裕 ②6 野口(清水)

雅子 ②7 田中克幸 ②7 内城勇

造 ②7 浪越雄二 ②7 柴田俊久

②8 結城國夫 ②9 関根康博 ③0

宇佐美七海 ③2 内藤甫 ③2 石

井ヒサエ ③5 中山節 ③5 木暮

晴雄 ③6 粟村緯子 ③6 小倉義

夫 ③7 平野広樹 ③8 木村龍一

郎 ③8 柳生田志志 ③9 佐藤清

子 ③9 柴田ひろみ ③9 横川純

夫 ③9 高野賀史 ④1 柳生田忠

生 ④2 本間博 ④2 阿部伸二 ④3

森近大輔 ④3 加藤勉 ④4 休宮

清彦 ④4 小松和幸 ④5 北條崇

成 ④7 當麻康江 ④9 荒海恵子

⑤2 宮下麗子 ⑤3 浅谷健介 ⑤3

石田浩 ⑤4 高野良治 ⑤4 黒田

尚美 ⑤5 宮下英敏 ⑤6 姫路雄

紀 ⑤6 角本靖司 ⑤8 徳道敏子

⑤8 福田慎一郎

☆二千元

①5 佐藤肇 ①9 佐藤玄祥 ①9 榎

本紀次 ②1 村田修八 ②2 清水

昭三 ②2 高木二郎太 ②3 星野

彦一 ②5 中澤雅啓 ②6 佐藤優

②7 佐々木淑公 ②7 加藤一 ③1

松井登久子 ③1 田中伸明 ③8

比留間陽子 ③8 狩野かよ子

④0 吉田憲生 ④3 石井啓 ④4 長

島明 ④5 高内英美 ④5 小林章

一 ④5 山崎陟 ④6 川寫健嗣 ④8

初澤浩一 ⑤0 長谷川健 ⑤1 生

澤創 ⑤3 長谷部佳代 ⑥0 鈴木

真喜子

☆千円

(学院) 大住米太郎 ④ 山川

友枝 ⑤ 小松(古田)豊子 ⑥

海津新之助 ⑩ 三宅(吉田)

迪子 ⑫ 岩切秀樹 ⑬ 鳥実専

二 ⑭ 高柳茂男 ⑮ 森岡照子

⑯ 三宅隼夫 ⑰ 糸井正子 ⑰

平井伸穂 ⑰ 市井(市川)浩

子 ⑰ 萩原嘉寿代 ⑱ 堀江秀

樹 ⑱ 田代陽一 ⑱ 福原俊彦

⑲ 天海誠 ⑲ 千葉主 ⑲ 舟津

昌亮 ⑲ 新村忠志 ⑲ 中野吉

夫 ⑲ 渡部武利 ⑲ 柵克彦 ⑲

吉田靖子 ⑲ 青木豊 ⑲ 山崎

蒼 ⑲ 田中育子 ⑲ 橋本二郎

⑲ 森岡忠司 ⑲ 高橋耕作 ⑲

中村一夫 ⑲ 胡桃愛子 ⑲ 田

川博 ⑲ 岡本草苑子 ⑲ 中村

(岡崎)陽子 ⑲ 糸井主好 ⑲

神山秀範 ⑲ 北村雅彦 ⑲ 関

伊智朗 ⑲ 工藤文宏 ⑲ 杉山

保雄 ⑲ 青山晴基 ⑲ 笠原正

親 ⑲ 小山内(河辺)多美江

⑲ 渡邊力 ⑲ 内山直行 ⑲ 鈴

木(工藤)民江 ⑲ 西川保洋

⑲ 沼田(福島)由紀子 ⑲ 赤

岡充雄 ⑲ 福安志泰 ⑲ 広明

文夫 ⑲ 小野紘緑 ⑲ 佐藤良

一 ⑲ 松本(永島)加代子 ⑲

梅枝(森藤)千代子 ⑲ 大城

裕子 ⑲ 西海泰子 ⑲ 大久保

昭男 ⑲ 岡崎浩二 ⑲ 末永洋

子 ⑲ 小林信行 ⑲ 寺田(鈴

木)かおり ⑲ 荒木麻那美

⑲ 湯口信雄 ⑲ 齊坂京子 ⑲

鶴田弘二 ⑲ 相澤寛和 ⑲ 中

野俊夫 ⑲ 相澤文隆 ⑲ 中田

健二 ⑲ 上田康弘 ⑲ 柏崎初

子 ⑲ 石井勝雄 ⑲ 入江徹 ⑲

大野まゆみ ⑲ 前田孝男 ⑲

鈴木喜美子 ⑲ 岡野昭 ⑲ 重

森祐二 ⑲ 稲生妙子 ⑲ 水野

(佐藤)恵里 ⑲ 星野智 ⑲ 後

藤政敏 ⑲ 大島和夫 ⑲ 中盛

祐貴子 ⑲ 込山哲郎 ⑲ 田中

慶篤 ⑲ 北山貴康 ⑲ 市原佑

里 ⑲ 竹内高雄 ⑲ 中西信之

⑲ 黒沢武志 ⑲ 鈴木康尊 ⑲

岡本京子 ⑲ 大岩治男 ⑲ 松

村哲也 ⑲ 立部正則 ⑲ 岩井

満 ⑲ 寺内由香 ⑲ 丸山一郎

⑲ 岩田明日香 ⑲ 加藤恵美

子 ⑲ 熊田(永瀬)友香子 ⑲

濱田大輔 ⑲ 土屋貴洋 ⑲ 伊

藤勝基 ⑲ 竹内隆子 ⑲ 関根

由記子 ⑲ 嘉手苺悟 ⑲ 大平

和雄 ⑲ 笠井謙次 ⑲ 平田玲

子 ⑲ 喜多野智之 ⑲ 遠藤登

⑲ 前田孝政 ⑲ 杉山佳延 ⑲

武藤仁史 ⑲ 砂山典子 ⑲ 町

田和行 ⑲ 福田隆雄 ⑲ 森岡

健 ⑲ 中村三千代 ⑲ 竹崎美

香 ⑲ 丸山理恵 ⑲ 金子明美

⑲ 野上有子 ⑲ 中村裕美子

⑲ 中村真弓 ⑲ 山中秀樹

予算・決算・収支報告書

予算案

自 令和4年4月1日
至 令和5年3月31日

収 入 の 部			
	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算
前年度より繰越	6,386,174	6,386,174	7,516,205
入 会 金	1,050,000	1,200,000	1,050,000
運 営 費	800,000	806,000	800,000
総 会 収 入	0	0	0
預 金 利 息	50	30	50
そ の 他 収 入	0	0	0
寄 付 金	700,000	672,000	700,000
講 習 会 費	0	0	0
収 入 合 計	8,936,224	9,064,204	10,066,255
支 出 の 部			
	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算
総 会 費	0	0	0
講 習 会 費	500,000	195,260	500,000
会 報 発 行 費	1,200,000	1,007,807	1,200,000
通 信 費	300,000	91,460	300,000
印 刷 費	30,000	0	30,000
渉 外 費	50,000	0	50,000
交 通 費	100,000	38,400	100,000
慶 弔 費	30,000	28,800	30,000
事 務 用 品 費	30,000	0	30,000
雑 費	30,000	0	30,000
情 報 管 理 費	200,000	150,272	200,000
役 員 会 議 費	20,000	0	20,000
設 備 使 用 料	36,000	36,000	36,000
予 備 費	50,000	0	100,000
新 規 事 業 費	50,000	0	1,500,000
事 務 活 動 費	30,000	0	30,000
支 出 合 計	2,656,000	1,547,999	4,156,000
次 年 度 繰 越	6,280,224	7,516,205	5,910,255

令和4年3月31日

日本指圧専門学校同窓会

会 長 岩 本 健 一 印
 会長代行 大 崎 益 弘 印
 会 計 高 橋 雄 輔 印
 青 木 美 稚 子 印
 監 査 渡 邊 和 雄 印
 角 本 靖 司 印

貸借対照表

令和4年3月31日現在

資 産 の 部		負 債 及 び 正 味 資 産 の 部	
現 金	34,302	余 剰 金	7,516,205
三菱東京UFJ普通口	4,396,532		
ゆうちょ銀行	3,085,371		
合 計	7,516,205	合 計	7,516,205

収支報告書

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

収 入 の 部			
	令和3年予算	令和3年決算	内 訳
入 会 金	1,050,000	1,200,000	80名分
運 営 費	800,000	806,000	402名分
総 会 収 入	0	0	
預 金 利 息	50	30	
寄 付 金	700,000	672,000	254名分
講 習 会 費	0	0	
そ の 他 収 入	0	0	
当 期 収 入 合 計	2,550,050	2,678,030	A
前 期 繰 越 収 支 差 額	6,386,174	6,386,174	B
収 入 合 計	8,936,224	9,064,204	A + B
支 出 の 部			
	令和3年予算	令和3年決算	内 訳
総 会 費	0	0	
講 習 会 費	500,000	195,260	オンライン研修講師謝金 スタッフ交通費
会 報 発 行 費	1,200,000	1,007,807	会報第42号 旭出版
通 信 費	300,000	91,460	郵便別納料金、振込手数料
印 刷 費	30,000	0	
渉 外 費	50,000	0	
交 通 費	100,000	38,400	役員交通費
慶 弔 費	30,000	28,800	母校へ卒業式祝い金
事 務 用 品 費	30,000	0	
雑 費	30,000	0	
情 報 管 理 費	200,000	150,272	名簿データCD作成、ホームページサーバーレンタル料
役 員 会 議 費	20,000	0	
設 備 使 用 料	36,000	36,000	母校へコピー機、電話等施設利用料として
予 備 費	50,000	0	
新 規 事 業 費	50,000	0	
事 務 活 動 費	30,000	0	
当 期 支 出 合 計	2,656,000	1,547,999	C
当 期 収 支 差 額	(105,950)	1,130,031	A - C
次 年 度 繰 越	6,280,224	7,516,205	A + B - C

令和4年度同窓会総会中止のお報せ

世界中で新型コロナウイルスが猛威を奮う最中の北京冬季オリンピックでは開催国の威信をかけての徹底した感染予防が世界中から注目を集めました。開催期間中にも新型コロナ感染は発症しましたが大きな感染拡大にいたらず無事冬季オリンピックが終了したことは素晴らしいことだと思います。日本では感染防止のためとはいえ国家による統制管理は法律上においても社会的価値観においても困難です。しかし我々日本人は歴史的に「公の中の個」という潜在意識が働いているような気がいたします。だれに強要、指示されるでもなくお互いを気遣い物事を進めていく素晴らしい国民性です。

令和4年度の同窓会においても同窓会会員各位の健康と安全はもとより我々施術者が関わる全ての人々を気遣う精神で同窓会は運営されなければなりません。皆様周知のとおり昨年、一昨年と同窓会総会は中止となりました。令和4年度こそはと同窓会総会開催を願っておりましたが現在のオミクロン株が蔓延する状況下を鑑み令和4年度も同窓会開催中止を役員会で決議いたしましたことをご報告させていただきます。

日本指圧専門学校同窓会 会長代行 大崎 益弘

同窓会で施術者賠償責任保険の取り扱いをはじめました。パンフレットをご参照下さい。

令和5年度（2023年度）総合型選抜（AO）入学試験日程

	エントリーシート受付期間	試験（面接）日時
第1次	6月1日（水）～6月9日（木）	6月12日（日） 午前9:30～
第2次	6月20日（月）～6月29日（水）	7月2日（土） 午後1:00～
第3次	7月11日（月）～7月26日（火）	7月29日（金） 午前9:30～
第4次	8月15日（月）～8月25日（木）	8月28日（日） 午前9:30～
第5次	9月1日（木）～9月13日（火）	9月16日（金） 午後6:00～
第6次	10月3日（月）～10月13日（木）	10月16日（日） 午前9:30～

令和5年度（2023年度）入学試験日程

	出願受付期間	出願期間
学校推薦型選抜（推薦入試）	10月3日（月）～10月13日（木）	10月16日（日） 午前9:30～
一般選抜（1次）（一般入試）	11月1日（火）～11月10日（木）	11月13日（日） 午前9:30～
一般選抜（2次）（一般入試）	11月21日（月）～12月7日（水）	12月10日（土） 午後1:00～
一般選抜（3次）（一般入試）	1月10日（火）～1月17日（火）	1月20日（金） 午後6:00～
一般選抜（4次）（一般入試）	2月1日（水）～2月9日（木）	2月12日（日） 午前9:30～
一般選抜（5次）（一般入試）	2月15日（水）～2月22日（水）	2月26日（日） 午前9:30～
一般選抜（6次）（一般入試）	2月27日（月）～3月7日（火）	3月10日（金） 午前9:30～

*詳細は日本指圧専門学校事務局までお尋ねください。(TEL03-3813-7354)

編集後記

新緑が芽吹き、爽やかな春風が心地よく、太陽の日差しも私たちの心を和らげてくれるととても過ごしやすい季節を迎え、身も心も活動的に、ウキウキして来る季節となりました。

しかし、一昨年来から我々人類を大きく脅かす新型コロナウイルスによって我々の生活も大きく変化せざるを得なくなりました。

同窓生の先生方も、うがい、手洗い、消毒、換気は勿論のこと、様々な感染予防対策をされ、苦境と言っても良い環境の中、指圧魂を胸に刻み、頑張っておられる事と存じます。こんな苦境に遭遇した時こそ我々の指圧による自然治癒力の向上が必要なのではないでしょうか!!

昨年度は同窓会としての活動はオンライン研修会以外、殆ど出来ませんでした。しかし、今年度もこのような環境においても実現できる方法でオンライン研修会も企画を進めております。

また、地方の会員様におかれましてもご参加出来ますよう企画を進めております。

会報誌も例年通り第43号を発行でき、大変嬉しく思います。オンライン研修会や同窓生からの便り、スペインからの便りに紙面を大きくさき、このような環境のご苦労や将来設計など同窓生の先生方にお役に立てればと思っております。

こんな時こそ、我々は指圧師としての同士です、力を合わせてこの苦境を乗り越え、平和な世界を築き、実現して行く為頑張りましょう。

(金子智久)